

News Release

コニカミノルタ、MJマテリアルと供給安定性と品質安定性に優れた インテリジェント再生材に関するパートナーシップを構築 ～MJマテリアルの新工場に生産ラインを導入し2026年度に事業化へ～

2025年10月8日

コニカミノルタ株式会社（本社：東京都千代田区、社長：大幸 利充、以下 コニカミノルタ）は MJ MATERIAL TECHNOLOGY SDN BHD（所在地：マレーシア ペナン州、社長：Weng Wenbin、以下 MJマテリアル）と、供給安定性と品質安定性に優れた再生プラスチック材料である「インテリジェント再生材」に関するパートナーシップを構築したことをお知らせいたします。

このたびのパートナーシップのもと、MJマテリアルは2026年春に新設するマレーシア・クアラルンプール生産拠点の生産ラインにコニカミノルタの自社の知見を蓄積した技術と設備を導入します。MJマテリアルはインテリジェント再生材を製造し、コニカミノルタと共に電子機器・家電用途としてアジア向けに顧客である最終製品メーカーに販売します。コニカミノルタは技術供与に対する対価をMJマテリアルが顧客から得た販売収益に応じて受領します。両社で2026年度の事業化を目指し市場での検証を進めています。

【インテリジェント再生材について】

インテリジェント再生材は、両社の最新技術・ノウハウを組み合わせて、供給安定性と品質安定性を高めた再生プラスチック材料です。家電由来の廃プラスチックを活用することにより、原料のコストを抑えることで低コスト化も見込めます。このような特長により、安定した材料特性が求められる電子機器、家電、自動車などの樹脂材料としての提供を計画しています。インテリジェント再生材の展開により、両社の事業成長と持続可能性が高い社会の実現に貢献します。



再生プラスチック材料

【コニカミノルタ 執行役員 デジタルワークプレイス事業本部・プロフェッショナルプリント事業本部 生産調達統括部 統括部長 鎌田 隆史のコメント】

コニカミノルタは、再生プラスチック材料を積極的に採用してきた実績と経験から、お客様が抱える課題を深く理解しています。私たちは、その課題を解決する技術とソリューションを備えており、お客様に最適な再生プラスチック材料を提供してまいります。再生プラスチック材料の導入を通じてお客様の課題を解決し、同時に本事業を拡大することにより、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

【MJマテリアル 社長 Weng Wenbin（ウェン ウェンビン）のコメント】

コニカミノルタが開発した再生プラスチック材料の品質を安定化させる技術は、再生プラスチックを使用している多くのお客様の課題に応えるものだと確信しています。この技術に自社で培ってきたモノづくりのフィロソフィーを融合することで、再生プラスチックの価値を向上させ、活用領域の拡大に繋がり、廃棄ゼロのクリーンな社会を実現できると信じております。

コニカミノルタは、多くの企業との連携を加速してさらなる環境負荷低減に挑み、循環型社会の形成と事業の創出を両立させてまいります。

【パートナーシップ構築の背景】

コニカミノルタは今年度を「成長基盤の確立」の年と位置付け、中長期の重点開発テーマである成長の芽を中心とした技術開発および事業展開を進めています。

成長の芽のひとつである再生プラスチック材料製造は、コニカミノルタがこれまで培ってきた材料技術をもとに、2011年度から自社複合機への活用を始めており、2024年度には社外製品に向けて提供を開始しました。

このほど、コニカミノルタが独自に開発したセンシング・AI技術とMJマテリアルの回収から生産まで一気通貫したプロセスの組み合わせにより、市場のニーズに応えるインテリジェント再生材の事業展開を目指し、MJマテリアルとのパートナーシップを構築しました。

【インテリジェント再生材の特長】

■材料選別とセンシング・AI技術による供給安定性

一定の品質を担保する再生プラスチック材料を製造するためには、純度が高く劣化が少ない高品位の廃プラスチック原料を仕入れる必要があるため、供給量が限定されるという課題があります。そこで、MJマテリアルのクアラルンプールの新しい生産拠点には、今まで培ってきた選別ノウハウを活用した選別ラインを設置しており、後続の工程に使用できる原料を効率的に選定することができます。

さらに、コニカミノルタが独自に開発したセンシング・AI技術の活用により、AIが設定した条件で廃プラスチック材料を含む原材料を混錬し、バージン材相当の物性・機能を得ることが可能となりました。これにより、幅広い廃プラスチック原料から再生プラスチック材料を製造でき、安価で供給安定性を担保できる再生プラスチック材料を提供できることが期待できます。

■顧客ごとに最適化したモデルにより成形の品質安定性を向上

再生プラスチック材料はバージン材よりも性能のバラつきがあることから、部品を製造する際に不良品が発生しやすい課題があります。さらに顧客・部品ごとに求められる仕様が異なり、それぞれ技術者の経験で成形条件を試行錯誤しながら検証を行うため、成形による量産化には多くの工数を要します。

そこでコニカミノルタが独自に開発したAI最適化モデルを活用し、部品ごとに最適化した成形条件を提案することで、成形難易度が高い部品でも顧客が求める品質を安定して量産することが可能となります。

【MJマテリアルについて】

MJマテリアルは廃プラスチック原料を活用し、マレーシアで自動選別機をはじめとする最先端リサイクル技術とポリマー技術をもとに、高機能再生材の開発および生産を行い、生産した再生プラスチック材料をワールドワイドに供給する再生樹脂メーカーです。

コニカミノルタとMJマテリアルは、2014年度から再生プラスチック材料製造における協業を開始しており、両社の再生プラスチックに関する技術・ノウハウを組み合わせ、ステークホルダーの要望に応える再生プラスチック材料を展開しています。

【MJ マテリアル概要】

会社名：MJ MATERIAL TECHNOLOGY SDN BHD

社長：Weng Wenbin

創業：2014 年

所在地：マレーシア ペナン州

事業内容：リサイクル技術・ポリマー技術による再生材の開発・生産

【MJマテリアル クアラルンプール生産拠点概要】

所在地：マレーシア ヌグリ・スンビラン州

開設予定時期：2026年春

敷地面積：51,000㎡

生産能力：75,000トン/年(予定)

【お客様のお問い合わせ先】

コニカミノルタ株式会社 化成品事業部

E-mail: matelier@konicaminolta.com

報道関係お問い合わせ先

コニカミノルタ株式会社 広報部

担当：西上 070-2186-6872 / 土井 070-3669-8856